

SSR・SRTの活用状況と課題について	資料4
---------------------	-----

1 本市における年間30日以上欠席した長期欠席児童生徒数及び不登校児童生徒数

		令和5年度[人]	令和6年度[人]	令和7年度[人]
小学校	長期欠席数	395	405	397
	内不登校数	123	244	264
中学校	長期欠席数	450	469	419
	内不登校数	332	391	330

令和7年度は、小・中学校とも長期欠席数が僅かに減少。ただし人数は依然多く、不登校対策は引き続き喫緊の課題。

2 SSRの利用状況

(1)SSRでSRTによる支援を受けた児童生徒数

	令和7年5月末時点	令和8年5月末時点
小学校	57人	104人
中学校	48人	65人

SRTを週4日配置としたことで、支援を受ける児童生徒が小・中学校とも増加(=支援が届く範囲が拡大)。

(2)前年度欠席日数における継続利用者の割合 ※

	29日以下	30～49日	50～59日	60～99日	100日以上
小学校	57%	21%	6%	9%	7%
中学校	27%	31%	8%	11%	23%

列は欠席日数の「範囲」。小学校＝前年度の欠席が少ない層(ふだんは登校できるが教室に入りづらい子)が中心。中学校＝前年度に100日以上欠席した層も一定数おり、SSRを足がかりに登校。

(3)1週間当たりの平均利用日数・1日当たりの利用時間の割合 ※

平均利用日数	1日		2日	3日		4日	5日	
小学校	6%		8%	2%		26%	58%	
中学校	11%		12%	15%		12%	50%	
平均利用時間	0.5h	1h	2h	3h	4h	5h	6h	7h
小学校	8%	11%	13%	9%	25%	9%	6%	19%
中学校	19%	19%	35%	19%	0%	8%	0%	0%

小・中学校とも「週5日(毎日)」が半数超。利用時間は、小学校＝長時間(一日を過ごす居場所)、中学校＝短時間(学習中心)と対照的。

(4)【継続利用者】主な活動内容 ※

	学習	気持ちを落ち着かせる	少人数による活動	相談
小学校	53%	28%	15%	4%
中学校	88%	0%	12%	0%

小学校＝学習に加え「気持ちを落ち着かせる」利用も多く、学習と心の安定の両面を支える。中学校＝ほぼ学習で、相談・少人数の関わりは「さわやか相談室」が担当。

※継続利用者(小学校53人、中学校26人)に絞って分析した割合

3 SSRの整備状況について

■小学校 SSR



■中学校 SSR



使い方が小・中で異なるため、画一的でなく各校のニーズに応じた環境整備が必要(例:落ち着ける設え・学習スペースの確保)。

4 今後の取組の方向性

- ・ 不登校の未然防止のため、児童生徒一人一人が安心して居心地のよさを感じられる学級・学校づくりの推進
- ・ 研修会における、不登校に関する基本的な考え方や段階に応じた支援策の講義・演習、活用例の共有
- ・ 小・中学校それぞれの利用実態(居場所型／学習中心)に応じた、SSRの環境整備の充実